

コオロギラン自生地探訪記

夏井高人

コオロギラン (*Stigmatodactylus sikokianus* Maximovicz ex Makino) という小型の野生ランがある。花の形はクモキリソウ属 (*Liparis*) のランの花と似ているが、唇弁の中央部にとっても小さな突起のような付属体がある。また、葉の形はクモキリソウ属のランとは全く異なっており、1個だけ小さな葉と数個の苞葉をつける。日本だけではなく中国南部と台湾にも分布しているとのことなのだが、日本では極めて限定された場所にのみ自生し、しかも人工的な栽培の成功例がないとされていることから、生きている間にこの目でコオロギランの花を観ることはできないだろうと諦めていた。

ところが、インターネット上で知り合った H さんと電子メールのやりとりをしている間に、コオロギランの自生地に案内してもらえるとということになった。予定日の直前まで大事な仕事がありスケジュール調整が大変だったのだけれど、どうにか日程を確保し、飛行機に乗って和歌山まで出かけることにした。

和歌山では前泊し、ホテル周辺の野草を観察して回った。9月に入ったばかりの時期で、ちょうどキイセンニンソウが満開だった。また、その他にも私にとっては珍しい和歌山の野草を観察することができた。

そして、翌朝、Hさんが自家用車を運転してホテルの前まで迎えに来てくださった。目的の場所はクルマで1時間以上かかる山の中の渓谷のようなところだ。途中で、別の種類の野生ランの自生地を教えていただいたり、路傍の野草の花を観察したり、世間話をしたりしながら、非常に狭く曲がりくねった山道を登り続け、やっとのことでその渓谷に到着した。

その渓谷は、入口のあたりから見ると、何の変哲もない杉山(人工林)のように見える。しかし、溪流に沿った遊歩道を登り、幾つかの吊橋を渡っている間に、ちょっと様子が異なるということに気付いた。それは、溪流の両側には杉以外の低木が何種類も自生しており、その樹皮には地衣類やコケ類やシダ類などがびっしりとはりついており、地表には非常に多くの種類のシダ類が生えている場所だったからだ。信じられないくらいに空中湿度の高い場所なのだろう。おそらく、朝晩には毎日のように濃い霧が垂れ込めているのに違いない。溪流を構成する岩石の表面にもコケ類やシダ類のほか、様々な種類の山野草が張り付いていた。また、遊歩道の路傍には、ベニシュスラン (*Goodyera biflora* (Lindley) Hooker f.) やミヤマウズラ (*Goodyera schlechtendaliana* Reichenbach f.) などが花を咲かせており、また、ときおり、クモラン (*Taeniophyllum glandulosum* Blume), カヤラン (*Thrixspermum japonicum* (Miquel) Reichenbach f.) 及びムギラン (*Bulbophyllum inconspicuum* Maximovicz) などがはり付いた小枝が落ちているのを見つけることができた。

そのようにして H さん野生ランの保護のことなどを語り合いながら遊歩道を登り、いくつかの吊橋を渡ると、Hさんが「あっ、あった！」と叫んだ。その場所は、吊橋のたもとで、

本当に普通の路傍と言って良いような場所だった。ちょうど杉林の縁にあたり、地面にはフカフカと杉の葉が降り積もっている。その葉の間から、杉の葉の長さよりもずっと短い丈の可愛らしいコオロギランが茎を伸ばし、花を咲かせているのではないか。しかも、その1個だけではなく、その周囲を探してみると、かなり多数のコオロギランが生えている。林縁とはいえ晴れていたので写真撮影にも適している。しばらくの間、Hさんと2人で夢中になって写真を撮りまくったことは言うまでもない。

実は、そのあとも更にコオロギランを求めて溪流のずっと上流まで歩いてみたのだけれど、その日に見つけることができた場所は、この1箇所だけだった。コオロギランが自生していたのは溪流に沿った斜面にある杉林の林縁であり、日中には陽光が差し込む場所だ。一日中日光の当たらない場所には生えていないようだ。

試みにコオロギランの中の1本の周囲に落ちている杉の枯葉を取り除けてみると、綿毛に近いような細かな根が杉の枯葉にからみついているのが見えた。おそらく、コオロギランは、半地生の植物であり、杉の枯葉に棲みつきそれを栄養源として分解する何らかの菌類と強い共生関係にあるのではないかと思われる。それゆえに、そのような環境を人工的に構築することができない以上、コオロギランの人工栽培ができないのだろうと推測する。

ちなみに、コオロギランを見つけた場所にはヒナノシャクジョウ (*Burmannia championii* Thwaites) も何本か生えていた。これまた初めて目にする植物で、その小ささとまるでキノコか何かのような極めて奇妙な生態に驚かされた。

このようにして、天候に恵まれたし、期待どおりにコオロギランの花を観ることができ、とにかく大満足の旅だった。

案内してくださったHさんに心から感謝したいと思う。



Stigmatodactylus sikokianus